

第 2 回平川市地域公共交通協議会会議録

会長	副会長	事務局長	事務局員

開催日時	平成21年1月27日(火) 午前9時30分～午前11時5分
開催場所	平川市役所本庁舎3階「応接室」
案 件	1) 規約改正について 2) 現在までの経過報告について 3) マスタープラン(案)について 4) 実証運行等の実施計画(案)について 5) 実証運行に係る実施主体及び実施方法等について 6) 事後評価について 7) 今後のスケジュールについて 8) その他
出席者	(委員出席者) ○菊池武弘会長 ○大黒正勝副会長 ○大川喜代治監事 ○工藤智久(工藤清委員代理) ○山下祐介委員 ○下山敏則委員 ○笠井津見清委員 ○八木橋長委員 ○船水永一郎委員 ○伊藤一哉委員 ○小笠原勝則委員 ○佐藤成子委員 ○奈良進委員 ○見崎信勝委員 (出席者14名) (委員随行者) 池田守(国土交通省東北運輸局青森運輸支局首席運輸企画専門官) (事務局) 事務局長 齋藤久世志 事務局員 工藤慎一 (オブザーバー) 大橋大樹(県企画政策部新幹線・交通政策課主事) (コンサルタント) 岸野啓一(岸野都市交通計画コンサルタント(株)代表取締役) 後藤正明(岸野都市交通計画コンサルタント(株)取締役) (委員欠席者) 葛西金光監事 近松玲司委員 小野敬子委員 豊嶋修委員 喜多秀行委員 (欠席者5名) (傍聴者) 1名
事務局長	ただいまより、第2回平川市地域公共交通協議会を開催いたします。本日は、黒石警察署近松玲司委員、神戸大学喜多秀行委員、平賀ハイヤー代表取締役葛西監事、NPO法人ひらかわマイバスの会理事小野委員が欠席となっております。

	<p>す。また弘南バス乗合部営業課長の工藤さんが乗合部長の工藤委員の代理出席、国土交通省東北運輸局青森運輸支局首席運輸企画専門官の池田さんが伊藤委員とともに出席となっており、出席者は16名となっております。</p> <p>それでは、協議会開催に先立ちまして菊池会長よりあいさつをお願いいたします。</p>
菊池会長	<p>皆様おはようございます。寒さ厳しい中、また、お忙しいこの時期にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。さて、前回の第1回協議会は5月に開催され、それから半年以上経ったわけですが、本来の予定では昨年の秋頃に第2回の協議会を開催し、中間報告を皆さんにお示しすることとしておりました。しかし、計画が2部構成となっております、第2章であるバスの実証運行がなかなか固まらず、当初の予定通り開催することができませんでした。そして本日、年度末も押し迫っての開催となったことに、委員の皆様には心からお詫び申し上げます。前回の協議会開催から半年の間、幹事会を6月に設置しまして、その後は先週の1月19日までに幹事会を合計4回開催し、コンサルタントの提案書の選定、マスタープラン案及び実証運行案の協議を重ねて参り、本日、皆様に計画案をお出しすることができることとなりました。本日は、次第のとおり、規約の改正、マスタープラン案と実証運行案の協議、国土交通省へ提出する事後評価について、皆さんから忌憚のない意見をいただきたいと思っております。本日はご審議の程よろしくをお願いいたします。簡単ではございますが、あいさつといたします。</p>
事務局長	<p>それでは、規約により会長が議長を務めることになっていきますので、この後の議事進行については菊池会長にお願いします。</p>
菊池会長	<p>それでは座ったままで進行させていただきます。さっそくですが、次第に従いまして本日の議事を進めてまいります。それでは、規約の改正について事務局から説明をいただきたいと思っております。</p>
事務局 菊池会長	<p>(資料の確認と資料1により説明)</p> <p>ただ今、説明いただきましたが、この件について質疑等ありましたらお願いします。</p>
菊池会長	<p>(なしの声あり)</p> <p>では、ないようですので、平川市地域公共交通協議会規約の改正については承認されたものとして決定してよろしいでしょうか。</p>
菊池会長	<p>(異議なしの声あり)</p> <p>それでは、平川市地域公共交通協議会規約の改正については承認されたものとし、この改正により、青森県交通運輸産業労働組合協議会と社団法人青森県バス協会が委員として加わることとなりますが、すでにどちらの団体へも委員の推薦依頼をしておきまして、また両団体から委員の推薦がされております。青森県交通運輸産業労働組合協議会からは同協議会幹事で弘南バス労働組合執行委員長であります見崎信勝さん、青森県バス協会からは専務理事の豊嶋修さんが推薦されております。両名には本日の協議会出席についても依頼済みでございます。それでは、新しく委員になられました見崎委員、着席をお願いいたします。</p>

	<p>たします。</p> <p>(見崎委員の着席)</p>
菊池会長	<p>青森県バス協会の豊嶋専務理事につきましては、本日欠席となっております。見崎さんにおかれましては、今後ともよろしく願います。それでは、次の議題に移りたいと思います。現在までの経過報告について、事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>(資料2により説明)</p>
菊池会長	<p>この件について質疑等ありましたら願います。</p>
菊池会長	<p>ないようですので、次の議題の実証運行等の実施計画(案)について、岸野都市交通計画コンサルタントより説明願います。</p>
岸野コンサル	<p>(資料3、4により説明)</p>
菊池会長	<p>この内容につきましてご意見ありましたら願います。なお、この内容については幹事会のメンバーにご審議いただいております。本日出席している委員の中で幹事会のメンバーとなっていない方もおりますので、ご意見等願います。市議会議長の小笠原委員、ご意見ありますでしょうか。</p>
小笠原委員	<p>乗り換えの情報は、これくらい便数が少ない地域だと、いつ乗れるかとても不安だ。行ったらもうないという状況である。これがあつたらすごく役立つものだと思う。</p>
笠井委員	<p>確かにモビリティの確保は大事だという位置づけで、公共交通を利用する機会が増えることにはなっているが、実際問題として、弘南バスが財政健全化計画を作っており便数を減らしている状態である。ここに書いてあることと逆のことを公共交通機関がやっている状況があるが、その課題や解決策はどのようになっているか。</p>
岸野コンサル	<p>後で説明しますが、市内の循環バスについては便数を増やし、増やすだけでなく地域の方の意見を聞きまして、できるだけ使いやすい時間帯に、というよりはダイヤを地域に決めていただきます。その代わり、値上げもさせていただくこととなります。そのようにしてバス会社あるいは市の負担を少なくして、サービスに見合った対価をいただくという考え方の中で、利便性を高めて利用者を増やしていく、という考え方でおります。</p>
笠井委員	<p>それは大いに結構なことだが、平川市の中だけで議論するものでなく、もっと広域的なネットワークの中で考えていかなければならないものもあると思う。平川市の公共交通計画を作るのではなく、広域的な観点も必要である。</p>
岸野コンサル	<p>ビジョンを考える際には広域的な観点も重要な視点だと思いますが、どちらかという地域に密着しながら実際にできるところからスタートするという考え方ですので、ご指摘のあつた広域的な視点というのは抜けていたかもしれません。</p>
菊池会長	<p>社協の会長さん、ご意見ありますでしょうか。</p>
大川委員	<p>社協は弱者を相手にしているのが多いので、いろいろな面をどこかでカバーしていかなければいけないと思っている。説明では年を重ねればお年寄りの割合が増えるというデータもでていることから、足の面からも配慮していかなけ</p>

<p>菊池会長 岸野コンサル 菊池会長 笠井委員</p>	<p>ればと思っている。 続いて実証運行等の実施計画案について説明願います。 (資料5により説明)</p>
<p>事務局 笠井委員</p>	<p>ただいまの説明にご質問等ありますでしょうか。 新屋の実証運行については、平賀駅まで送迎される高校生が多いとデータにも残されているが、4ページの唐竹の路線についてもせつかく増便するのであれば、時間をやりくりして同じようなことをすればいいのではないと思う。他の路線は隔日運行だが、この路線は毎日運行なのでそのような取り組みをすることによって、バスへの利用が確保できるのでは、と思っている。この唐竹・広船線は一周するのにどれくらい時間かかるか分からないが、周り方も検討したほうがいいと思う。もう一点、道路管理者としての立場で言うが、6ページの新たなバスの運行ということで尾上平賀間をコミュニティバスの運行を計画しているが、バス停は新たに設けるのか。</p>
<p>事務局 笠井委員</p>	<p>はい。 この路線には県道も入っておりバス停の位置が決まっているのであれば、例えば、バス停の側溝に蓋がかかっているとか、運行してから苦情来ようであれば遅いので、事前にこちらへ協議していただきたい。早ければ早いほどいい。</p>
<p>岸野コンサル</p>	<p>最初の質問ですが、唐竹・広船線につきましては実は平成19年度にマイバスの会で通学バスの実験をされております。朝の通学バスを運行したのですが、それも循環ではなく、広船から沖館を通して平賀駅へ直行するバスです。アンケートを実施した際には乗るという結果だったが、実際に蓋を開けてみると乗らなかったということがあり、佐藤委員は随分苦労して運行されておりました。新屋でもう一回実施するというのは、それを踏まえて地元の意見を聞いたからです。新屋の違いは何かといいますと、懇談会の席上で、高校生を持つ父親の意見として、朝は弘前まで車で通勤で行くから平賀駅まで乗せていくのであって、乗せていく手段があるのにわざわざお金を出してまでバスに乗せるのはやりにくい、むしろ、帰りは家に帰ってビールを一杯飲みたいが娘を迎えに行くために帰りを待たないといけないので、帰りの便があればいいなどという意見が出まして、唐竹の状況と懇談会の状況を踏まえ、新屋で実験をしましょうという経緯があります。ということで、唐竹の方は今回盛り込まれていないということです。バス停の設置につきましては心得ておりますので、具体的になったときに、実証運行とはいえ道路管理者と協議をしていきたいと思っております。</p>
<p>大橋オブザーバー</p>	<p>11ページ費用負担の表だが、定額補助の部分は今年度の20年度の連携計画の策定については定額で補助を受けられるが、その連携計画に基づいて実証実験を行う場合は全て2分の1の補助だと思われるが、どうでしょうか。</p>
<p>岸野コンサル 山下委員</p>	<p>2分の1の誤りでした。 幹事会の中で確実に実証運行するのは資料5の3ページの新屋の通学バスだけだと認識している。町会長さん達が集まった時に、私と会長と説明して、手</p>

を挙げたところに実験をやりたいと説明したが、誰も手を挙げませんでした。しかし、最終的に新屋の町会長さんが手を挙げまして、後日、懇談会を開催して地域の皆さんにもう一度説明をしました。結果、新屋町会ではこれを行うということになりまして、私たちはそれを応援するという形で話をもっていている。このように実験に参加するという仕組みができていなのは新屋だけなので、それ以外の唐竹・広船線や大坊や杉館とか、更には尾上の方については、こんな風なことが考えられるという案にしか過ぎません。地域の方と話し合いを進めながらある程度条件が整わない限り実験できないという意味であるので、すぐ実験するのではなく22年度へ持っていったということである。尾上地域の町会長の要望はよく分かるが、実際乗っている人数でいけば大変少ない路線だと思しますので、たとえ実験できるからといって路線を通したとしても、誰も乗らずに実験を終わるのではないかと思う。本当にこの路線が必要なのか、どういう形で乗るのか、どういう形で実験が終わった後も乗るのか、ということ町会とじっくり話し合いしてやっていかなければならない案件だと思う。ですから印象としては、このような路線を準備してこのように実験しますよ、というように感じられたと思いますが、そのようなものではありません。資料3についてだが、自動車利用をしているので町が悪くなるというストーリーとなっているようだが、よくよく考えるとどうして自動車に頼らざるを得ない生活になったかという環境を書き込んでいく必要があると思う。便利だから自動車を利用しているという面もあるだろうし、逆に、利用せざるを得ない社会状況になっている面もある。それをもう一度、公共交通をみんなで使って残すということを考えていかないと、将来が危ぶまれる。自動車に乗っているのが悪いということだけでストーリーを作るのではなく、地域の人たちの生活の観点に立ったような書き方でないと伝わらないのではないかと、という気がする。そうすれば、実験の意義付けができてくるのではないかと思うし、もう少し議論すべきところだと思う。

菊池会長

そのご意見を充分考慮して、検討していきたいと思います。続きまして実証運行に係る実施主体及び実施方法等について、事務局より説明願います。

事務局

(資料6により説明)

菊池会長

では、今の説明にご質問等ありますでしょうか。

菊池会長

特にございませんか。

菊池会長

ないようですので、次の調査事業に係る事後評価記載様式について、事務局より説明願います。

事務局

(資料7により説明)

菊池会長

ただ今、説明いただきましたが、この内容で国土交通省へ提出するものとしたします。この件につきましては、昨日午後、東北運輸局企画観光部交通企画課が事務局へ訪れまして、この様式に従ってヒアリングを行っております。その席上で、この様式にもございますが、議事録の公開が適切に市民に開示されるよう指導がありました。従いまして、本日の議事録を平川市ホームページにより公開し、また、計画案のパブリックコメント、つまり計画案を議事録と同

<p>笠井委員 事務局</p>	<p>じく市のホームページに掲載して広く市民から意見募集を行うこととしたいと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>パブリックコメントのスケジュールを教えてください。</p> <p>詳細についてはまだ決めておりませんが、2月上旬から約10日間の周知というスケジュールを予定しております。</p>
<p>菊池会長 事務局</p>	<p>今後のスケジュールについて、事務局より説明をお願いします。</p> <p>(資料2により説明)</p>
<p>菊池会長</p>	<p>次の協議会は1か月後の2月下旬ということで計画しております。日にちが決まりしだい、なるべく早く連絡したいと思います。長時間本当にお疲れ様でした。それではこれもちまして協議会を終了したいと思います。本日はありがとうございました。</p>

以上、会議顛末を報告するものである。

(報告者氏名) 事務局員 工藤 慎一